

J3アスクラロ沼津・日本たばこ産業と合同で防災イベント

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は4月25日（日）、沼津市愛鷹広域公園で行われた防災イベントに参加した。

これはサッカーJ3リーグのアスクラロ沼津、日本たばこ産業、静岡地本が合同で開催したもの。ソーシャルディスタンスを確保する等コロナ対策を十分に行った上で、静岡地本の自衛官が災害時等に活用できるロープワーク術をアスクラロの選手たちと一緒に来場者に展示した。

アスクラロの選手たちは、初めてのロープワークに最初は苦戦していたものの、最後は全員しっかりと結ぶことができ、来場者から盛大な拍手を受けていた。

車両展示コーナーでは陸上自衛隊の中型トラックと偵察用オートバイの展示を行い、来場者が興味津々な様子で見入っていた。

また募集広報ブースでは、自衛隊の職種を紹介したパネルの展示や、来場した小・中学生に当日限定のオリジナル缶バッジを配布した。子供たちはパネルを見学したり、受け取った缶バッジをユニフォームに付けて自衛隊とのふれあいを楽しんでた。

静岡地本は、一人でも多くの県民に自衛隊の活動を知ってもらうため、今後も各種防災イベントへ積極的に参加していく。



ロープワークに挑戦する選手



自衛隊ブース

頼れる存在に！中学生に防災授業

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は5月13日（木）、島田市立初倉中学校において、陸上自衛隊第34普通科連隊（板妻駐屯地）と合同で防災授業を行った。これは同校から依頼を受け、2・3年生192人に自衛隊の災害への対応から公助の役割を効果的に取り入れた適切な防災行動について学んでもらおうと行われた。

静岡地本は、藤枝地域事務所長の黒岩要彦1等陸尉が自衛隊の災害派遣活動や災害への準備などについて、経験談や映像を交えて講話を行った。また、体育館に自衛官の制服やヘルメットなどの装備品、自衛隊について説明したパネルなどを展示した。

第34普通科連隊は、速やかに災害現場へ搬送し、災害救援の初動を容易にする「人命救助システムI型・II型」の油圧式カッターや音響探知機、隊員が身に付ける背のう（リュック）などを展示。実際に触った生徒は「すごく重い」「実際にこれを使用したことがありますか」など、感想や質問を隊員に伝えていた。

また、大規模災害が発生した際に炊き出しを行うことができる「野外炊具1号」を使用し、隊員が調理したカレーライスを生徒たちが昼食として試食した。隊員からカレーを受け取りグラウンドの周りに座った生徒たちは、「すごくおいしい」と笑顔でほおばっていた。

静岡地本は、今後もこのような機会を活用し、災害に対する備えといかなる状況でも頼りになる存在だと自衛隊を認知してもらえよう、引き続き広報活動を行っていく。



カレーの配布



防災講話